

本の紹介



発行 小学館
ページ数 304p
ISBN
9784093888981
1,540 円 (税込)

以前紹介した「なんとめでたいご臨終」の続刊です。

著者の小笠原文雄先生は岐阜市で開業し、在宅ホスピスの実践で
1800名以上の看取り、一人暮らしの看取りも120名にもなります。

本書は小笠原先生が実践の中で出会った多くの患者さんとの出会いと
別れのドラマを丁寧に追ったものです。

わたしたちきょうと福祉倶楽部の実践でも在宅ケアが想像を超えた
力を利用者さんに与えた事実をいくつも経験しました。

そんな奇跡の体験がこの本ではいくつも紹介されています。
くわえて、この本は乙訓地域で在宅医療をすすめる開業医の
先生方にも読んでいただきたい在宅ホスピスの極意が紹介されて
います。

例えば患者さんの痛みの不安を解消するための具体的な技法や
離れて暮らすご家族の不安を解消するシステムの紹介も具体的な
事例紹介の中にちりばめられています。

ひとつひとつの紹介されている患者さんの人生のドラマは
できあがったテレビドラマよりも面白い生身のドラマです。

「えっ、こんなことが!」と思わず叫びたくなるような人生の終局のドラマに
何度も驚嘆させられました。

このドラマを作ったのは小笠原先生の力は欠かせません。

併せて医療と共に利用者を守るために努力する訪問介護などの力が重なり合っ
て作り上げたものです。わたしたちの実践はまだまだこの域には及びませんが

「追いつけたらいいな」と考えます。そしてこれからの実践を模索していく
ためために多くの在宅医療関係者に読んでいただきたいと思います。

そして「在宅でこんな風に『人生をまっとうしたい』と考える多くの方にも
読んでいただきたい。

あなたの願いは叶えられます。

無くなってしまった日常生活用具の復活 とあらたな品目の指定が必要です。 ー老人日常生活用具の再考を

市町村の高齢者福祉の事業に「老人日常生活用具給付事業」というものがありま
す。介護保険制度が始まる前にはこの事業で高齢者が地域で安全に生活を維持するた
めの福祉用具などが所得に応じた負担で給付されていました。いまは介護保険で扱わ
れるベッドや車椅子もこの制度で給付されていました。多くの低所得の高齢者には所
得に応じた負担ですから費用負担0で高額なものも利用が可能だったのです。

ところが郵政民営化で名をはせた小泉内閣のとき、この制度を一般財源化しまし
た。

その結果この制度は、自治体によって大きな差が出てきて今日に至ります。

たとえばかつては国が給付品目としていた「自動消火器」（火気を感知して自動的
に消化剤を噴霧するもの）が現在給付されるのは乙訓2市1町では向日市、大山崎町
です。

固定電話を持たない高齢者世帯に電話を貸与する「福祉電話」は向日市のみ存続し
ています。

このふたつは本当に無くしてかまわない品目だったのでしょうか？携帯電話機の操
作ができない高齢者、すぐに物をなくしてしまう高齢者の安否確認は福祉電話が有力
な道具でした。たばこの火の不始末やお仏壇の蝋燭、線香からの失火を防ぐために自
動消火器は有効です。

これらの品目が無くなったことで高齢者の生活に起こりうる危険防止は以前と比較
して困難が増えています。

そして今は想像を絶する猛暑。エアコンを持たない高齢者にとっては日々差し迫っ
た生命の危機にさらされています。エアコンの給付も必要ではないでしょうか？

本当に生命を守るために必要な物品を提供する給付事業が必要です。

参考

長岡京市の老人日常生活用具
電磁調理器
安全装置付きガスコンロ
電子レンジ

大山崎町の老人日常生活用具
電磁調理器
自動消火器

向日市の老人日常生活用具
電磁調理器、自動消火器（給付）
福祉電話（貸与）